

被災地の農業再生について（溝口）

東日本大震災からもう8年以上が経過した。その間、被災地においては様々な問題が噴出し、論争を巻き起こしてきた。そして、それらの問題が8年以上たった今解決されたとは言いがたい。そのなかなかに解決されてこなかった問題の一つが、被災地の農業再生についてである。私は被災地の農業の問題はまず、大きく二つに分類することができると思う。以下、それぞれの問題点、解決方法を記す。

1 技術的問題(土壌汚染等)

まず、そもそも農業をすることができない土地になってしまったということが挙げられる。東日本大震災の被害といえば、津波と原発事故がすぐに思い浮かぶだろう。これらは、震災当時に大きな被害を与えただけでなく、その後も大きな問題として残り続けている。その一つが土壌問題だ。津波によって土地が海水に浸った結果、農業ができなくなってしまったり、原発事故による放射線汚染の結果、基準値を上回った放射線が土壌から検出され、土地が使えなくなってしまったりした。この授業においては特に放射線による土壌汚染が扱われた。技術的な解決策としては汚染土埋設法などが存在し、当初考えられていた策よりもより安価でより効率的な方法が考え出されてきた。しかし、新たな案がすぐ採用、実行される訳ではなく、現行の施策からの移行や地元住民の反対など、問題点も多い。実際に行政を動かすことができなければ実現することはなく、それが大きな課題だとも言えるだろう。

2 一般人の放射線に対する認識

東日本大震災直後、連日メディアで報道されていたのが、風評被害である。科学的には問題ないとされているにも関わらず、イメージから放射線の影響があると捉える人が多く、被災地産の農作物が売れなくなってしまったという問題である。8年という歳月を経てこれに関してはだいぶ改善されてきたと思うが、完全になくなったとは言い切れないだろう。これに対する改善策はただ一つしか無いと思う。それは、被災地産の農作物が安全であるということアピールし続けていくことだ。アピールには様々な方法がある。例えば科学的側面から安全性をアピールすることだ。この方法は客観的なデータに基づくものであり、信頼を得るためには一番効果的な方法である。しかし、データは一般人が見てすぐ理解できるものであることは多くなく、幅広い層に理解を得るのは容易ではない。そこで商品展開などわかりやすいやり方でアピールしていく方法がある。このことはこの授業でも扱われたことだが、実際に消費者に直接アピールしていくためにはこのような方法がとても有用である。また、消費者へのアピールは様々な方法がさらに考えられる。様々な方面からアピールしていくことによってより信頼度は高まっていくであろう。

以上、被災地の農業の問題点と解決方法を述べてきた。では、私自身ができることは何であろうか。私は文系の学生であり、技術的なことは一切わからない。したがって、私ができることは技術の理解を得られるための橋渡しとなることであろう。そして、多くの人の賛同を得ることが被災地の農業の再生に大きな役割を果たすことになると思う。